

オオタバコガ、ヨトウムシ類、ミナミキイロアザミウマ、キスジノミハムシの防除に!

農林水産省登録
第17121号



脱皮阻害で害虫ストップ

石原 **アタブロン**[®] 乳剤

®は登録商標

野菜・だいず・茶・キクなどを 害虫から守る!



コナガ



オオタバコガ



ヨトウムシ



ハスモンヨトウ



タマナギンウワバ



チャノコカクモンハマキ



ミナミキイロアザミウマ



幼虫



キスジノミハムシ

IPM防除に適しています。



殺虫剤分類 15

有効成分：クロルフルアズロン…5.0%
人畜毒性：普通物
(毒劇物に該当しないものを指している通称)

7つの特長

- 1.キチン合成阻害剤です。
- 2.脱皮阻害作用があります。
- 3.オオタバコガ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウなどの大型チョウ目害虫、キスジノミハムシやアザミウマ類に高い効果を示します。
- 4.遅効性です。
- 5.低濃度で残効性に優れています。
- 6.植物体への浸透移行性がありません。
- 7.訪花昆虫、天敵等の有用昆虫に対する影響はほとんどありません。

上手な使い方

- 1.遅効性です：害虫の発生初期に使用してください。
- 2.食毒性です：害虫の若齢幼虫期に使用すると、食害を最少限に抑えます。
- 3.浸透移行性がない：作物の茎葉部の表裏に均一に散布してください。
- 4.ローテーション散布を行なう：本剤の連続散布は害虫の抵抗性を発達させるので、作用性の異なる他剤との体系散布を行なってください。
- 5.ミツバチの導入：散布翌日以降にしてください。
- 6.マルハナバチの導入：散布4日後以降にしてください。

⚠ 効果・薬害等の注意

- 本剤は幼虫の脱皮を阻害してやがて死亡させる性質をもち、通常、死亡するまでに7~10日以上を要するので、幼虫期になるべく早く散布する。
- アザミウマ類およびタバコナジラミに使用する場合、蛹、成虫に対しては効果がないので、発生初期の幼虫主体のときに散布する。
- はくさいおよびだいに使用する場合、幼苗期の新展開葉に散布すると白化などの葉斑を生じることがあるので、幼苗期、特に軟弱徒長苗や活着不良苗には使用をさける。
- だいのキスジノミハムシに対しては、1~2週間間隔で2~3回散布する。
- ねぎのシロイチモジヨトウに対しては、食入前の若令幼虫期に散布する。
- さやえんどうに使用する場合、新葉に白化を生じることがあるので注意する。
- メロンに使用する場合、摘芯前(特に低温時)に散布すると、新葉および花弁に薬害が生じる場合があるので、交配摘芯後に散布する。
- 茶に使用する場合、新展開葉に散布すると白化などの葉斑を生じることがあるので注意する。
- 本剤は植物体上での移行性がないため、茎葉部表裏に均一に散布する。

適用害虫と使用方法

*印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫(摘採)前の日数と本剤及びクロルフルアズロンを含む農業の総使用回数の制限を示す。

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量(ℓ/10a)	使用時期*	総使用*回数
キャベツ	ハイマダラノメイガ	2,000	100~300	7日	4回
	アオムシ、コナガ、ヨトウムシ				
はくさい	ハスモンヨトウ、タマナギンウワバ	2,000		14日	3回
だいこん	アオムシ、コナガ、ヨトウムシ				
なす	アオムシ、コナガ、ヨトウムシ	2,000		前日	4回
	キスジノミハムシ、ハスモンヨトウ				
ピーマン	ミナミキイロアザミウマ	2,000		14日	3回
	ハスモンヨトウ、オオタバコガ				
ししとう	アズキノメイガ	2,000		前日	5回
	ハスモンヨトウ、オオタバコガ				
メロン	ミナミキイロアザミウマ	2,000~4,000	14日	2回	
	タバココナジラミ類(シルバーリーフコナジラミを含む)	2,000			
すいか	ウリノメイガ	4,000	前日	3回	
	ミナミキイロアザミウマ	2,000			
いちご	ハスモンヨトウ	2,000	14日	3回	
	アザミウマ類				
トマト	ハスモンヨトウ	2,000	前日	5回	
	ハスモンヨトウ、オオタバコガ				
ミニトマト	オオタバコガ	2,000	14日	2回	
	ハスモンヨトウ、ヨトウムシ				
オクラ	オオタバコガ	2,000	前日	3回	
	ハスモンヨトウ				
やまのいも	ナガイモコガ	2,000~4,000	14日	3回	
	やまのいも(むかご)				
かんしょ	ハスモンヨトウ	2,000	14日	3回	
	オオタバコガ				
えだまめ	オオタバコガ	2,000	前日	3回	
	ハスモンヨトウ				
だいず	ハスモンヨトウ	8	0.8	14日	2回
		16			
みょうが(花穂)	ハスモンヨトウ	2,000	0.8~1.6	前日	3回
	みょうが(莖葉)				
エンサイ	ハスモンヨトウ	2,000	14日	3回	
	ふぎ				
しそ	ハスモンヨトウ	4,000	前日	2回	
	さやいんげん				
さやえんどう	シロイチモジヨトウ	2,000	100~300	3日	2回
	レタス				
ブロッコリー	アオムシ、コナガ、タマナギンウワバ	2,000	21日	7日	3回
	カリフラワー				
ねぎ	シロイチモジヨトウ、ネギアザミウマ	2,000	21日	3回	
	わけぎ				
あさつき	シロイチモジヨトウ、ネギアザミウマ	2,000	21日	3回	
	あさつき				
茶	チャノココクモンハマキ、チャハマキ	200~400	14日	2回	
	ヨモギエダシヤク	100~180	10日	1回	
たばこ	ヨトウムシ	100~180	10日	1回	
宿根かすみそう	シロイチモジヨトウ	100~300	発生初期	5回	
きく	シロイチモジヨトウ	2,000	100~300	発生初期	5回
	ミナミキイロアザミウマ				

※※みょうが(花穂)の収穫前日まで。但し花穂を収穫しない場合にあつては開花期終了まで。

使い方：散布。但し、だいず8倍および16倍処理は、無人航空機による散布。

みょうが(花穂)の場合、花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する。

- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合、ラベルに記載してある無人航空機散布時の注意事項を読んで使用する。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

⚠ 安全使用上の注意

- 散布液調製時には保護メガネを着用し、薬剤が眼に入らないように注意する。散布液は刺激性があるので、眼に入らないように注意する。使用後は洗眼する。
- 散布液調製時および散布時には不浸透性手袋、ゴム長靴、長ズボン・長袖の作業衣などを着用し、薬剤が皮膚に付着しないように注意する。
- 本剤は水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。無人航空機による散布で使用する場合は特に注意する。
- 蚕に対し長期間毒性があるので、付近に桑園がある所では使用しない。
- 危険物第4類第2石油類に属するので、火気には十分注意する。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗い、適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。

本印刷物は、2023年3月時点での知見に基づいて作成しています。



石原バイオサイエンス株式会社

〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目10番2号

ホームページ アドレス <https://ibj.iskweb.co.jp>

ホームページの
製品情報へ



取り扱い